

# "手で学ぶ"実践教育の場創出

## 知識と技術力持つ人材養成

1日付で東北工業大学の第10代学長に渡邊浩文氏（建築学部建築学科教授）が就任した。いまなお新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、教育の場ではウェブを使ったオンラインや録画といったオンデマンドなどの手法を用いたニューノーマルな授業が定着しつつある。その一方、実践的な教育の場の創出に当たっては「コロナ禍を踏まえ、『手で学ぶ』ことの大切さを再認識した」とし、十分な感染症対策を講じつつ、「建設業界を始めとする東北のものづくり産業に技術力を備えた人材を輩出していきたい」と語る渡邊氏に教育方針や環境整備の取り組みなどを聞いた。

### 就任インタビュー



東北工業大学長  
渡邊 浩文氏

#### — 就任の抱負を

「東北は特に少子高齢化が進む地域で、官民問わず専門技術者が不足している。人材の育成に対する社会的責任は高まっている。本学は堅実で社会に有用な教育と研究を真摯に実践してきており、卒業生はさまざまな業界の最先端で活躍している。今後も社会からの信頼に応えられるように、工学と建築、ライフデザインなどの3学部8学科の魅力の

さらなる向上に努め、汎用性を備えつつ、高度な知識と技術力、卒業後も貪欲に学び続ける姿勢を身に着けた生徒を育成したい」

#### — 教育環境を取り巻く変化と対応について

「コロナ禍を経て、繰り返して確認することができるようオンライン型やリアルタイムで質疑が可能なオンライン型などの授業形式を採り入れた。従来の登校による授業との『ハイブリッド型』で展開しているが、環境の変化に応じて教職員や学生らにヒアリングなどを重ねながら教育のあり方のメリットを生かせるように科目とのフィッティングを最適化していく」

#### — 教育方針について 「学生には設備や教授陣、

切磋琢磨（せつさたくまじ）し協働する仲間がいる学びの環境を整ったキャンパスに来る意義を教えたい。実践的な実習などを求めて入学する学生も多くいる。素材や専門的な機材など『モノ』に触れることはVR（仮想現実）などでは補えない。今後も対面式の授業を基本にしていきたい」

「2020年度から全学科の1年生でリテラシーレベルのAI（人工知能）総論を必修化した。工学系の大学として21年度からは応用レベルとエキスパートレベルにも対応する。19年度に立ち上げた東北のSDGs（持続可能な開発目標）研究のための実践拠点は、20年度にAIなどに特化した研究所を加えて15研究所となった。各県で意見交換会を開き、地域の課題解決に向けて共同研究や開発、社会実装などに積極的に取り組みたい」

#### — 環境整備について

「知の拠点として強化しつつ、より開かれた学び舎とするため、八木山キャンパス（仙台市）の老朽建物を建て替える。今回の実験・教育棟がその初弾となる。今後は建築

学科がある5号館や図書館などを集約するとともに、地域住民のためのコモンスペースの整備などを計画している」

（わたなべ・ひろの）1993年3月早大大学院理工学研究科博士後期課程建築学専攻単位取得退学。東北工業大学では08年から教授を務め、建築学科長や工学部長、大学院工学研究科長などを歴任し、16年4月から副学長。埼玉県出身、55歳。

